

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年も後半に入ってきました。年後半の展望を考えてみたいと思います。

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられます。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れと、明確な方向性を描けない動きが続いています。

このような状況の中、今後の相場展望を考えるベースとして最も注目すべきは、米国の実体経済と考えます。

FRBは年内後一回以上の利上げを考えており、さらにバランスシート縮小の開始も確実視しています。FRBの見立てを前提に考えると、年後半のドル/円のメインシナリオは、ドルの緩やかな上昇となるでしょう。ただし、実際の経済指標はやや斑模様となっており、市場では米景気拡大に

ドル/円相場のトレード戦略

懐疑的な見方もあり、ドルの上値も限られたものとなる可能性が高くなってきています。

リスクシナリオとしては、ロシアゲート疑惑や対日貿易政策などトランプ政権発のサプライズの円高が挙げられます。今年安値の108円を割り込むような場合には、何か新しい材料が出ている可能性が高く、大幅な円高には警戒する必要があるでしょう。

また、北朝鮮リスクが急速に高まってきており、現在市場では円高要因として反応していますが、軍事行動の可能性を考えた場合、市場の反応とは異なり大幅な円安リスクも考えておく必要があるかもしれません。

■ 短期展望

先週は、29日早朝に北朝鮮が弾道ミサイルを発射したことを受けてリスク回避の円買いが拡大し、一時108円27銭まで下落しました。しかし、ドルの下値は堅く反発し110円台を回復、週後半には8月の米ADP雇用統計と4-6月期米国内総生産（GDP）改定値が市場予想を上回ったことから110円67銭の高値をつけました。

週末の米雇用統計が総じて弱い内容となったことで109円台前半まで押す局面があったものの110円台を回復して週を越えました。

今週は、先週末に北朝鮮が大規模な核実験を実施したことで円高に進んで週を明けました。

ただし、早期に軍事的な動きが予想されているわけではなく、追加の材料無しに108円台を売り込んでいく勢いはないでしょう。

ただし、北朝鮮リスクがドルの上値を重くしていることは事実であり、すでに110円台ではドル売り圧力が強まったものと考えられます。

したがって、今週は北朝鮮動向をにらみながら108円半ばから110円半ばでの神経質な取引が予想されます。